

審査員からのコメント

【岸本葉子さん・エッセイスト】

食べ物の配給制、子供の軍需工場での労働、防空壕や水汲みなど、当時の「暮らし」に多くを学んでいます。戦後の労苦の理解もあります。導入はやや長いですが、自分自身の動機や目的意識を持って昭和館を再訪していること、再訪により学びを深めていることが表現されています。結びでは、自分にできることの発見にたどり着いています。

【関沢まゆみさん・国立歴史民俗博物館教授】

田中さんはロシアからの転校生がきたことをきっかけに、戦争を知りたいという問題意識から昭和館を再訪しています。自分ごととして戦時中の生活を知ろうとし、防空壕体験、水汲み体験をしています。防空襲で亡くなった人への思いも書いています。戦争に巻き込まれて多くの犠牲者がでてしまうことに気づいています。そのうえで、小学生の自分ができることは、過去の戦争を忘れないこと、伝えていくことであるという重要な点に気づいているところがよかったです。

【伍藤忠春・昭和館館長】

幅広い好奇心から小学校1年生及び5年生の二回にわたって昭和館を訪問し、その時の感じ方の違いや、平和や家族の有り難さなどを感受性豊かに叙述するとともに、小学生の自らができることは何かを正面から問う内容となっています。